
インフィニットストラトス 二人目の男

モール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

インフィニットストラトス 二人目の男

【Nコード】

N7677U

【作者名】

モール

【あらすじ】

オリキャラを何人かだします。

内容は本編を沿っていきますがすこし違うところもあります
基本はオリキャラの主人公を視点にしますが時々ちがうところがあります
ります

楽しくよんでいただけたら幸いです

転校生はいつたいだれ？

「まっさか行く事になるとはな〜ホントにだいじょうぶかな〜俺」
ここISS学園の前に男がいた外見は尖った頭、ある娘を連想させるような眼帯、黒い瞳すると、男はある人物を見つけた。

「お〜い千冬〜」
その人物は織斑千冬だった。近づいた彼女はその頭を思いつきり殴った。

「二度とそれで呼ぶな」
目の殺気と背後の本気のオーラにただ頷くしかなかった。

「まったくなぜ私がお前の迎えなどせねばならん」
自己紹介が遅れたが俺は田原秋良である、彼女が迎えにきたのはただ単に俺が方向オンチだからである。

「早く行くぞ、ホームルームが終わってしまうからな、それと学校では織斑先生と呼べよ。」

そういつて早足に歩いていった。俺が方向オンチだと分かっているのだろうか。

「さっさと来い」
俺は怒鳴られて走って追っていたはずなのだが学園に入ってから見失ってしまった。

一方その頃教室では
「今日はトーナメント前日です。皆さん明日は元気に頑張ってください。」
さい。」

山田先生がそういうとちょうど千冬姉が入ってきて

「山田先生、連れてきたので」

「分かりました、では皆さん転校生を紹介しますね、入ってください
い」

「……………誰も入ってこないま

かドッキリつてオチか、いやだが千冬姉がするとは思えないすると千冬姉がいきなりドアを開けて回りを見回した。

「おいてきた。」

千冬姉はそうゆうと教室から出て行った。

ガタツ

と、天井が揺れた音がしたちちょうど教卓の真上だった。

「え、ええええええ」

山田先生やみんな慌てて教室の奥へ逃げた。

「ちよつといたいたいなんなんですか」

怖いのかセシリアや他の女の子たちが次々と声を上げる。

「ちよつとワクワクする」

どこがするのか教えて欲しい

ガタツ！！

一際おおきな音をたてて天井が外れた。

次回予告

「転校生が来るとかいつて織斑先生が着たけどなんだったんだろうかな」

「少し前においてきたといあったがあれはなんだったんだろうかなにしても驚いたなあれは」

「あら〜篤さんあれぐらいで驚いていたんですか」

「うるさいぞセシリアお前も怖そうな声をあげていただろうが」

「はいはい、二人とも早くしないと予告終っちゃうよ」

「しまった」「そうでしたわ」

「次回は天井裏から何が出てくるのはなんだろうね少し楽しみだよそれじゃまた次回」

（ ）（ ）何気においしいところを（ ）（ ）

転校生はいつたいだれ？（後書き）

次はいつ投稿するか分からないのでなにとぞ気長に待ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7677u/>

インフィニットストラトス 二人目の男

2011年10月8日17時45分発行